

平成27年度学校評価 ( 1学期末評価 ・ 中間評価 )

学校名 大分県立鷺学校

前年度評価結果の概要	重点目標(1)については、指標としていた幼児児童生徒の能力を向上させることができたと答えた教員の割合は95%であった。ただし日本語能力の向上については十分指導できていないことからさらなる言語活動の充実が望まれる。また、同じく重点目標(1)に掲げた指標、個別の教育支援計画で保護者の思いが受け止められたと答えた保護者は89%。 重点目標(2)については、乳幼児相談来訪者アンケートで子育ての役に立ったと答えた相談者100%。 重点目標(3)については、卒業生の進学・就職率100%。とおおむね指標を達成できた。
------------	--

学校教育目標	中期目標	重点目標
聴覚に障がいのある幼児児童生徒一人一人の実態に即し、各学部間の連携による一貫した教育を行うことにより、障がいによる困難を主体的に改善・克服し、社会参加や自立するために必要な知識・技能・態度・習慣を養う。	(1) 幼児児童生徒が主体的な活動を行うために必要な基礎的・基本的な知識・技能・態度及び習慣を身に付けさせる。 (2) 一貫教育確立のため各学部間や寄宿舎との連携システムを構築する。 (3) すべての教員が教育相談活動に必要な知識・技能を身に付ける。	言語活動を充実させ、基本的な日本語(活用)力を高める。

重点目標	達成(成果)指標	重点的取組	取組指標	PL SL	検証結果(自己評価)		学校関係者評価	
					評価	重点的取組・取組指標の実践 今後の改善策		
言語活動を充実させ、基本的な日本語(活用)力を高める。	すべての幼児の認識語彙数が次のようになる 3歳児：500語以上 4歳児：1300語以上 5歳児：1800語以上	行事で扱ったことばを活動後も日常的に使って、やりとりをさせる。 連絡シートを活用する。 学期毎に習得したことばの確認を行う。	教員が年齢毎に語彙表を作成する。 教員が行事ごとに扱うことばを明示する。 行事で扱うことばが連絡シートにより、保護者に周知される。	PL：幼稚部主事	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度からの懸案であった連絡シートの名称を話し合い「お話しシート」に決定、変更した。</li> <li>・語彙表を基に、1学期の行事で扱うことばを「お話しシート」で周知することができた。</li> <li>・現在1学期末の語彙表確認中である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行事の前に「お話しシート」を見直すなかで、入っていない語彙表のことばには、下線をつけて分かる様にする。また、語彙表のデータにも担当者が追加し更新しておく。</li> </ul>	
	すべての児童が目標読書量を達成し、読解プリントの結果が年間で10%向上する。	読書量について学期毎の目標を児童毎に定め、取り組ませる。 2週間に一度の割合で読書の時間を設け、読書に取り組ませる。	児童が、自己の状況に応じ、低学年で100冊以上、高学年で5600ページ以上の目標設定ができる。 教員が年間で15回以上読書の時間を設ける。	PL：小学部主事	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個人差はあるが、目標読書量を設定することで子どもたちの読書に対する意欲が高まり、読書量が増えた。現段階で目標を超えている児童が4名いる。</li> <li>・「読書の時間」を設けたのはクラス平均で4、75回。休み時間に自ら図書館に行く児童も多くなってきた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・漫画から、日本語の使い方や得る知識も大きいので6年生以外は漫画も可としている。今後、図書館に行くことが習慣付いた子どもたちについては、漫画以外の読み物の良さを伝え、文章を読むことへとつなげたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼稚部語彙1800語とは何を指すのか。音声か書記か手話か。</li> <li>・いろいろ見て体験して意味を理解した上で書いた方が良い(文字表記)。</li> <li>・子ども個々に応じた指導も必要。わかる子はもっと先へ。下に合わせるのではなく。</li> <li>・社会で健聴者とのコミュニケーションにおいて書記日本語を読み取る力は必要であるので鷺学校の時に育てて欲しい。</li> </ul>
	すべての生徒が適切な理由を付して説明したり、資料を活用して説明することができるようになる。 「話し合いまとめプリント」を正しく書けるようになる。	毎月1回以上話し合い活動を行う。 話し合いのルールを毎回確認する。 話し合いの過程や結果を文に書き表し、互いに確認する。	教員が10回以上話し合い活動を実施する。 話し合いのルールを全生徒が言えるようになる。 生徒が話し合い活動の授業ごとの「話し合いまとめプリント」を書けるようになる。	PL：中学部主事	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師が話し合い活動を4月1回、5月1回、6月2回、合計4回行った。</li> <li>・話し合い活動を行う時は毎回最初に話し合いのルールを確認させた。</li> <li>・話し合いのテーマに合わせて目的や自分の考え、話し合いの結果をプリントに記録させた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・話し合い活動を現在4回終えている。年間10回以上行えるように今後も月に1～2回程度を目標に行っていく。</li> <li>・話し合いのルールはどの生徒も理解できているが、全員が正確に言えてはいない。全員が正しく言えるように、ルールを復唱させるなどして徹底を図っていく。</li> <li>・話し合いに沿って目的、自分の考え、話し合いの結果をプリントに記録させたが、形式が決まっていなかった。テーマに関係なく、どんな話し合い活動の時にも使えるようなワークシートを準備し、毎回活用していくことで話し合い活動の記録の取り方を習得させていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・支援学校では会社ではなく福祉就労する人もいると聞く。能力があるのに会社で採用されない人がいるのは、インターンシップ等の方策が必要なのでは。</li> <li>・外部との交流を積極的に推進して欲しい。校内で手厚くだけではダメ。</li> </ul>
	すべての生徒が、5W1Hを押さえ、必要事項が適確に伝わるメモを取ることができるようになる。	メモの取り方を指導し、ホームルーム活動、現場実習、校外学習及び修学旅行においてメモを取らせる。	すべての生徒がメモ作成の要領を身につける。 すべての生徒が、すべての活動後にメモの写しを提出できる。	PL：高等部主事	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学部集会で、メモの必要性を理解させ、全生徒に同一のメモ帳を持たせた。授業やあらゆる活動で活用した結果、生徒自身で必要なタイミングを判断し、メモをとれるようになってきた。</li> <li>・行事のたびに学部全体で5W1Hのメモに取り組み、生徒は要点を押さえたメモを取ったり、文章を書いたりする事への抵抗感が薄らいてきた。3年生の筆談面接練習においてもその効果が感じられるようになった。</li> <li>・メモは時々提出させ、クラス担任や主事が確認した。</li> <li>・生徒は現場実習や修学旅行の際もメモ帳を活用し、必要な連絡以外に筆談にも工夫して使用できるようになった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も同様の取り組みを続ける。短時間で要点を押さえるメモから、テーマに対して自分の考えをまとめるメモへと、メモの内容の充実を図りたいと考えている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学進学組の追跡調査はしているのか。</li> </ul>